

題名：沖縄県浦添市で見つかった「特定外来生物」オオヒキガエルの防除対策について

一般社団法人沖縄しまたて協会 技術環境研究所 研究員 林 丈智

1. 目的

オオヒキガエルは中南米原産の大型カエルで、サトウキビ害虫駆除の目的で日本に移入された。定着した各地で生態系等に害を及ぼしており、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づく特定外来生物に指定されている。これまで南北大東島、石垣島のみで定着していたが、平成23年夏にはじめて沖縄島の浦添市キャンプキンザー及びその周辺において、多数生息していることが確認された。

ここでは、本種が確認された地域を対象とした各種調査の実施及び、関係機関との連携により、本種の沖縄本島からの完全排除を目指すことを目的とした。

なお本稿は、環境省那覇自然環境事務所から平成23年度に発注された「平成23年度 沖縄県浦添市におけるオオヒキガエル対策事業業務」の内容について発表するものである。

2. 内容

- ・現状の報告（平成24年3月末現在）
- ・環境省、沖縄県、浦添市、米海兵隊等、関係機関による取り組みの紹介。
- ・調査結果の報告

3. 結論

- ・本格的な繁殖シーズンを前に、捕獲による排除及び、繁殖候補地の定期的な見回りによる繁殖活動の把握、繁殖シーズンに至っては上記に加えて卵・幼生の発見時の駆除が必要。
- ・関係機関による連携の強化を行う。
- ・継続的な取り組み。

4. 今後の問題点

- ・本種の完全排除のための、有効なトラップの開発。
- ・繁殖活動の阻止。